

十勝川左岸圏域河川整備計画

[変更] 案

平成 24 年 2 月

(令和 8 年 1 月 部分改定)

北 海 道

策定及び改訂経過

区 分	年 月	備 考
策 定	平成 24 年 2 月	
第 1 回 部分改定	令和 8 年 1 月	今回改定

十勝川左岸圏域河川整備計画

— 目 次 —

第1章 対象圏域と河川の現状

第1節 対象圏域の概要	1
第2節 圏域内河川の現状	6
1. 治水の現状と課題	11
2. 河川利用及び河川環境の現状と課題	17

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 計画対象区間	22
第2節 計画対象期間	22
第3節 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	23
第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持並びに 河川環境の整備と保全に関する事項	26

第3章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の 施行により設置される河川管理施設の機能の概要	28
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	30
1. 河川の維持の目的	30
2. 河川の維持の種類及び施行の場所	30

第4章 河川の情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項

第1節 河川にかかわる調査・研究等の推進に関する事項	32
第2節 河川情報の提供に関する事項	32
第3節 地域や関係機関との連携等に関する事項	33

河川整備計画・附図(北海道知事管理区間)	34
----------------------------	----

第1章 対象圏域と河川の現状

第1節 対象圏域の概要

十勝川は、北海道の東部に位置する道内3大河川の一つで、大雪山連峰の十勝岳（標高2,077m）にその源を発し、山間部を縫い十勝平野に入り、帯広市に達した後に音更川、札内川、利別川等を合流し、豊頃町大津において太平洋に注ぐ流域面積9,010km²（道内面積の約11%）、幹川流路延長156kmの一級河川である。

本圏域は十勝川流域の河川整備を行うにあたり、十勝川を左岸、右岸及び上流の3圏域に区分した内の左岸圏域である。十勝川左岸圏域は、北に石狩山地、東に白糠丘陵を抱え十勝川との間に広大な十勝平野が広がり、大部分は利別川流域と浦幌川流域となっている。

知事管理河川は68河川にのぼり、流域は豊頃町、浦幌町、池田町、士幌町、本別町、上士幌町、足寄町及び陸別町の8町で構成され、そのうち本別町、足寄町及び陸別町は全域、浦幌町、池田町は一部を除きほぼ全域、豊頃町、士幌町及び上士幌町は一部分が含まれる。

〔地形・地質〕

本圏域の利別川は、東三国山（標高1,230m）にその源を発し、中流域の足寄市街地で足寄川を合流したのち、流路をやや西に変えながら十勝平野を南下して、十勝川に合流している。浦幌川はウクタキヌプリ岳（標高620m）の南部にあたる丘陵性山地にその源を発し、支川を合流しながら丘陵性台地を南下して、浦幌十勝川に合流している。

利別川上流域の地質は、東部に砂岩、礫岩等からなる新第三紀の堆積岩と凝灰岩質岩、西部は安山岩質岩や流紋岩質岩等からなる新第三紀の火山岩が大半を占め、中流域では、凝灰岩質岩や軽石流堆積物等からなる新第三紀から新第四紀の火山性岩石が分布している。下流域では、主に砂岩よりなる新第三紀堆積岩で構成され、上層に新第四紀沖積世の未固結堆積物が広がり、右岸の台地・段丘はロームが覆っている。浦幌川流域は新第三紀の泥岩に覆われ、これに砂岩や泥岩・砂岩互層が混在している。



▲足寄町市街地から見る利別川と足寄川と雌阿寒岳



▲陸別町市街地から見る利別川と上流域
（出典：帯広建設管理部）

〔気候〕

本圏域の気候は、太平洋側東部気候区に属しており、一般に夏季は高温、冬季は低温乾燥で、道内でも有数の極寒地域である。圏域中央部に位置する本別観測所(2013～2022)の年平均気温は6.6℃、年最高気温の平均は35.0℃、年最低気温の平均は-25.7℃である。年降水量の平均は780mm程度であり、道内でも降雨量の少ない地域である。年最大積雪深の平均は48.0cmであり、積雪の少ない地域である。日照時間は長く、晩秋から春にかけて晴天日数が多くなる特徴がある。

〔人口・産業・経済〕

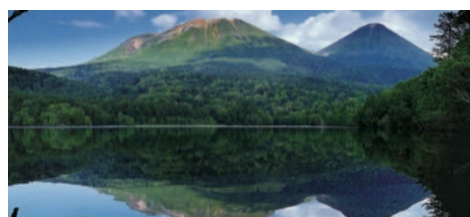
本圏域に関する8町の人口及び世帯数は、令和2年第21回国勢調査では39,774人18,457世帯であり、人口は昭和30年をピークに減少、世帯数も昭和55年を境に緩やかに減少を続けている。

圏域の主産業は農業を中心とした第一次産業であり、就業人口の32%を占めている。平坦地では、豆類、小麦、ビートなどの畑作、丘陵山麓では乳牛・肉牛を中心とした酪農・畜産が盛んで、国内でも有数の農業地帯を形成している。生産した作物を原料とする醸造業も盛んに営まれており、ワインは、国内外の品評会でも高い評価を得ている。

また、オンネトーなどの恵まれた大自然と北海道屈指の広さを誇る大地、そこに広がる広大な畑作・酪農地帯の景観が、北海道らしいイメージとして観光客の人気を集めている。



▲浦幌模範牧場



▲オンネトー

(出典:上-浦幌町町勢要覧、下-足寄町観光ガイドブック)

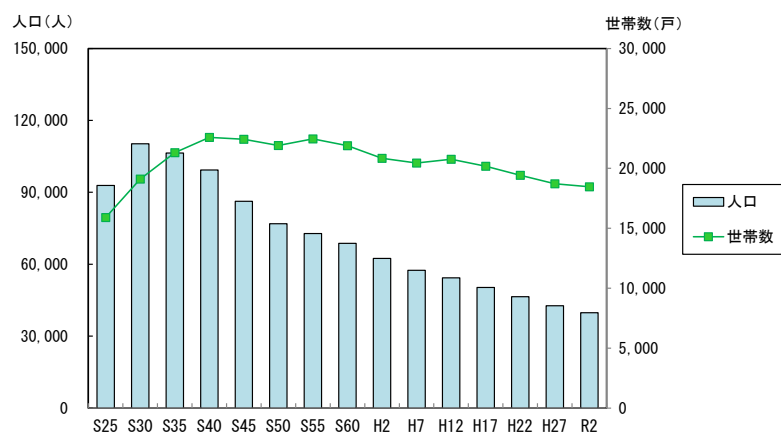


図-1 人口及び世帯数の推移(8町)

※「北海道市町村勢要覧・国勢調査」より

表-1 産業別就業者人口の推移(8町)

区分 産業	8町合計の国勢調査産業別15歳以上就業者数																	
	S45年		S55年		H 2年		H 7年		H 12年		H 17年		H 22年		H 27年		R2年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
第1次産業	20,017	45.4%	14,083	36.9%	11,817	35.6%	10,218	33.0%	8,907	30.8%	8,280	32.1%	7,646	32.7%	7,051	32.0%	6,910	32.4%
第2次産業	8,409	19.1%	8,782	23.0%	7,320	22.0%	6,647	21.5%	6,300	21.8%	4,618	17.9%	3,616	15.5%	3,241	14.7%	2,944	13.8%
第3次産業	15,660	35.5%	15,272	40.0%	14,089	42.4%	14,086	45.5%	13,735	47.4%	12,896	49.9%	11,957	51.1%	11,478	52.1%	11,475	53.8%
分類不能の産業	12	0.0%	3	0.0%	10	0.0%	7	0.0%	20	0.1%	39	0.2%	163	0.7%	280	1.3%	0	0.0%
合計	44,098	100.0%	38,140	100.0%	33,236	100.0%	30,958	100.0%	28,962	100.0%	25,833	100.0%	23,382	100.0%	22,050	100.0%	21,329	100.0%

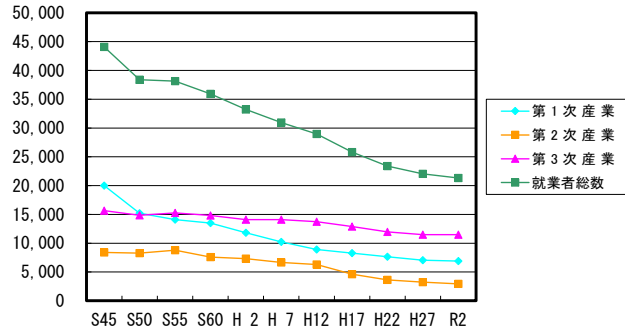


図-2 産業別就業人口の推移(8町) : 「北海道市町村勢要覧・国勢調査」より

〔土地利用〕

本圏域8町の土地利用(R2)は、総面積5002.24km²の約68%が山林原野で、農用地(田・畑・牧場)が約19%、宅地が約0.8%である。土地利用の変化は、宅地の面積が昭和30年の約4倍となっているが、他はほぼ横ばい状態である。圏域の土地利用の特徴としては、農用地の割合が高く、平坦地では畑作、丘陵山麓では酪農・畜産が盛んであり、国内でも有数の農業地帯を形成していることが挙げられる。また、宅地は広く開けた平坦地に集中し、市街地を形成している。圏域北東端は阿寒摩周国立公園に指定され、市街地周辺の丘陵性山地・台地を中心に道設鳥獣保護区が11箇所指定されている。その他、北海道自然環境等保全条例に基づく環境緑地保護地区が本別町に1箇所、学術自然保護地区が足寄町に1箇所指定されている。

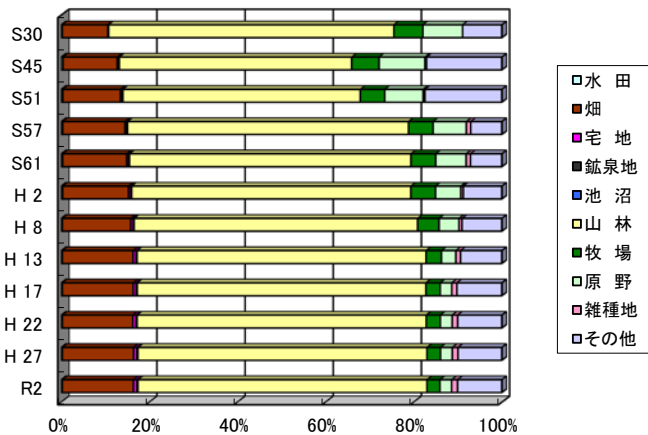


図-3 地目別土地利用状況の推移(8町) : 「北海道市町村勢要覧・北海道統計書」より

〔交通〕

本圏域の交通網としては、利別川の下流域にある池田町が交通の要衝であり、国道 38 号、242 号、J R 根室本線及び道東自動車道が交差・分岐し、道東地方の主要都市帯広市、北見市及び釧路市と結ばれている。また、中流域の足寄町では国道 241 号と 242 号が交差し、幹線交通網を形成している。

〔河川利用〕

河川水の利用は、かんがい用水として約 1200ha に取水量約 3.0m³/s が利用され、また、水力発電用の取水が行われ 3 箇所の発電所において最大出力合計約 108,600kw の電力が生み出されている。この圏域で生産された作物を加工するでんぷん工場、乳製品製造工場には工業用水として、また、本別町、浦幌町などの水道用水としても利用されている。

利別川は、川釣りのポイントとして釣り人に親しまれている河川であり、河川敷を利用したパークゴルフ場やローラースケート場、多目的広場、公園、運動場が整備され、親水性を高めた利用箇所が多く、花火大会や夏祭りなどのイベント会場としても有効に利用されている。



▲足寄町両国花火大会

(出典:足寄町町勢要覧)

〔風土・文化〕

本圏域全体としての歴史は、開拓以来 100 年程度であるものの、縄文時代からの遺物・遺跡の包蔵地やアイヌの砦跡または祭場といわれるチャシ跡等の埋蔵文化財などが数多く沿川に残されている。8 町のうち、圏域内に存在する文化財保護法に基づく指定文化財(有形)は、国指定史跡「ユクエピラチャシ跡」(陸別町)、道指定史跡「十勝太遺跡群」「浦幌新吉野台細石器遺跡」(浦幌町)、町指定 19 箇所となっている。その他、伝承芸能等の無形文化財として「浦幌開拓獅子舞」(浦幌町)が受け継がれており、足寄川上流には天然記念物の「オンネトー湯の滝マンガン酸化物生成地」がある。

また、足寄川の支川 螺湾川^{らわん}では、恐竜のベヘモトプスの全身骨格が世界で始めて発見され、その後も新種新属の化石の発掘が相次ぎ、世界の研究者からも注目される動物化石の町として知られているなど、社会教育の場としても、充実した地域となっている。



▲動物化石博物館

(出典:足寄町町勢要覧)

〔自然環境〕

本圏域の自然環境は、上流域が北海道の中でも未だ手付かずの自然が多く残る大雪山系と阿寒山系の山々に囲まれ、緑豊かな森林の中にはクマゲラ、コウモリ類等が、水量豊かな清流にはアメマス、スナヤツメ（北方種）など多種多様な動物が生息し、登山や溪流釣りの人気スポットとして知られるように自然環境は良好であり、圏域はもとより道内・国内の人々の憩いの場としての利用も多い。

上流域にはトドマツ、エゾマツ、ダケカンバ等の針・広葉樹の混交林の自然植生が広がり、標高が下がるにつれてエゾイタヤシナノキ群落^{（シナノキ）}が混じり、トドマツ、カラマツの植林地が混在してくる。中下流域になると常緑針葉樹林の自然植生はほとんど姿を消し、カラマツの植林地やミズナラーカシワーコナラ群落等や牧草地となり、広大な畑地が広がっている。このような植生環境や広大な沖積平野を縫うように蛇行して利別川や足寄川等が流れ、その影響で河岸侵食や侵食崖、河原・中州が形成されている。

利別川は、農地の利用が川岸まで迫り、河川沿いにはヤナギ類にハルニレ、ケヤマハンノキ、エゾイタヤ等が混在する河畔林が断続的に続き、ケショウヤナギ、ヤエガワカンバが混在する貴重な河畔林も見られる。河畔林から流水までの空間には、ヨシやミゾソバ等の湿性植物やミクリ等の抽水性植物が繁茂する水生植物群落^{（水生植物）}が広がり、水生植物が繁茂する水中には、それらの葉を利用し茎に巣を作るトミヨやイトヨが生息している。河道は蛇行を繰り返す随所に砂礫堆や中州を作り、魚類の産卵・生息に適した浮き石が多い瀬や淵を形成している。それらの淵尻や瀬にはウグイ、アメマス、ハナカジカ等が見られる。

水際の河畔林の枝には小魚を求めカワセミやヤマセミがあらわれ、河原には石の隙間にいる昆虫をついばんでいるハクセキレイ、水辺にはアオサギやシギが見られる。河畔林から農地にかけては、木や草の実、穀物を食べにくるカワラヒワ、ベニマシコ、ノビタキ、ヒバリ、モズ等が見られる。

足寄町市街地下流にある仙美里^{（せんびり）}ダム湖にはヨシ群落やミクリ等の抽水性植生が茂る湿地と広く開放水面が広がり、オシドリ、カモ類等の水鳥が多く、湖岸に面した左岸山腹の樹上にはアオサギのコロニーがある。

足寄川は、両岸に農地が広がり、川沿いにはヤナギ類、ハルニレ、ケヤマハンノキ等の河畔林が茂り、湾曲部ではその幅が広い箇所も見られ、河畔林の下部には、貴重種であるアカンカサスゲ、ノダイオウ、ホザキシモツケ等の草本類も茂っている。水際にはミゾソバ、オオイヌタデ、ヨシ等の湿性植物が茂り、その草陰にはトミヨ、イトヨ、ギンブナ、スナヤツメ（北方種）等の魚類が生息し、砂礫質河床の瀬にはウグイ、フクドジョウ、ハナカジカ、ニジマス等の姿が見られる。

周辺の河畔林の枝には、モズ、ノビタキ、ベニマシコ等の鳥類がとまり、餌となる草の実や昆虫を探している姿が見られ、小魚を求めて時折ヤマセミが現れる。河原や中州にはハクセキレイ、キセキレイが姿を見せ、水際にはアオサギが見られる。

螺湾川は、足寄川合流点から初見橋までの区間は、右岸に螺湾市街地が広がっており、これより上流は農地が広がっている。

中流域の上螺湾地区には「日本一大きなフキ」として全国的にも有名な「ラワンぶき」が自生しており、ラワンぶき鑑賞圃場が整備されているほか、上流域には雌阿寒岳の麓にある湖オンネトーが位置している。川沿いの崖地には、ミズナラ、ケヤマハンノキ等よりなる河畔林が茂り、礫質河床の瀬にはハナカジカが、淵にはエゾウグイ等の姿が見られる。

出典)「第2,4回 自然環境保全基礎調査」(環境庁)

「利別川、足寄川等 環境調査報告書(H8~R3)」(北海道帯広建設管理部)

第2節 圏域内河川の現状

圏域内の現在までの整備状況は、図-5に示すとおりである。圏域にある知事管理河川68のうち、過去の災害発生の有無、現況河川の流下能力、沿川の土地利用等から優先的に河川整備を推進する必要がある河川は、利別川、足寄川、及び螺湾川の3河川である。

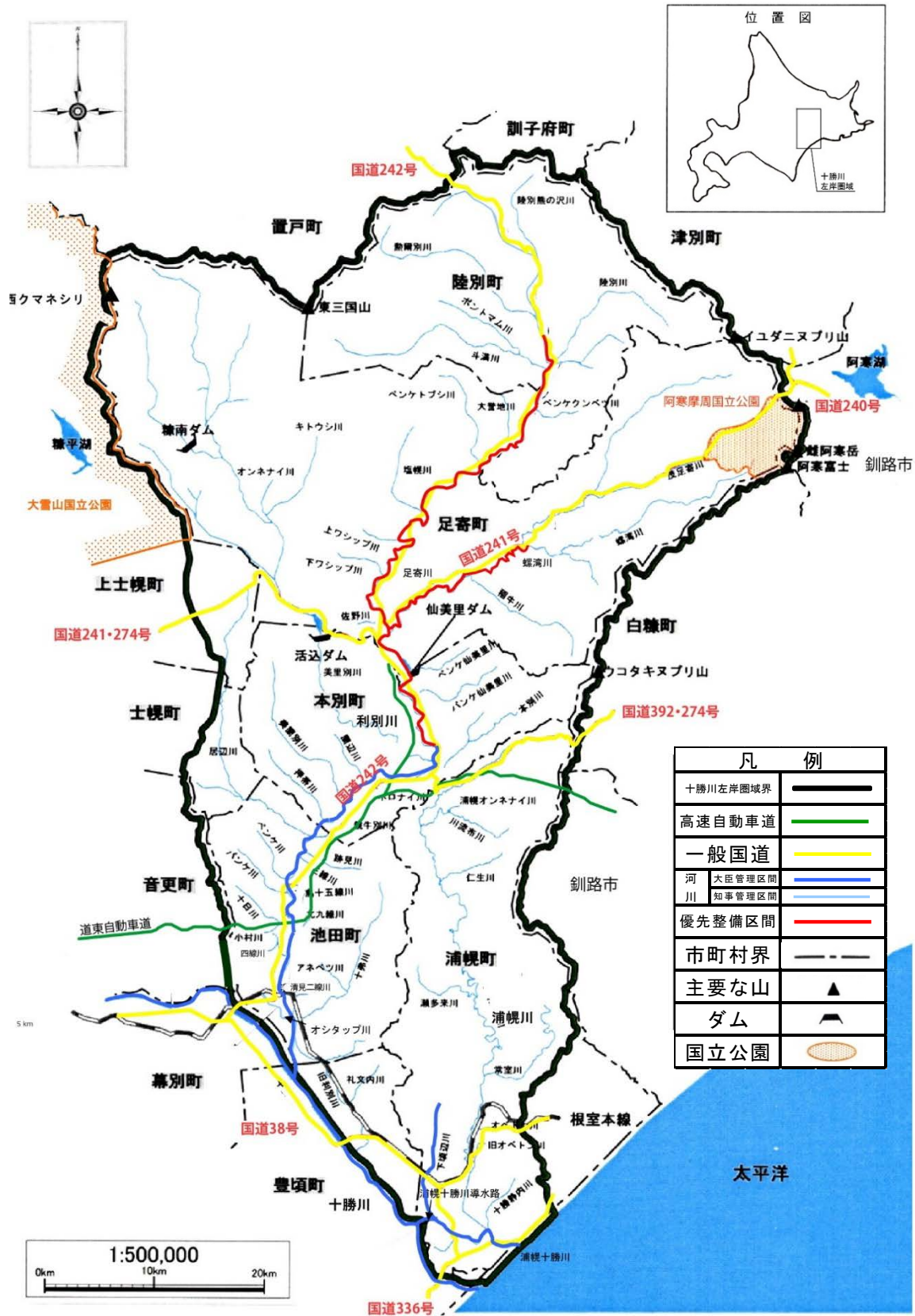


図-4 計画対象圏域図

表-2 圏域内の道管理河川と優先整備区間の一覧 (1/2)

水系名	河川名					知事管理 区間 (km)	優先整備 区間 (km)
	1次 支川	2次 支川	3次 支川	4次 支川	5次 支川		
十 勝 川	礼文内川					9.5	
		旧利別川				7.0	
			コタノロ川			3.8	
	利別川					85.6	62.9
		十弗川				15.3	
			アネベツ川			2.2	
		清見二線川				4.4	
		オシタツ川				4.2	
		四線川				2.0	
			七線川			1.0	
		北九線川				2.8	
		十日川				7.4	
			小村川			0.4	
		高島十五線川				3.0	
		パンケ川				6.5	
		ペンケ川				6.5	
		三線川				1.5	
		跡見川				2.5	
		親牛別川				2.5	
		居辺川				31.0	
			ワッカクネツ川			5.0	
		押帯川				8.5	
		美蘭別川				16.5	
		蘭辺川				5.6	
		ホロナイ川				1.8	
		本別川				8.3	
			モツ川			2.0	
		美里別川				70.0	
			芽登川			17.0	
			イクシナ川			3.5	
				旭ヶ丘川		1.3	
		キトウシ川				10.5	
			オンネナイ川			5.2	
		ヌカナン川				14.5	
			ヌカナン一号沢川			0.4	
		ホロカビリベツ川				11.0	
			下ホロカビリベツ川			2.0	
		ビリベツ一号沢川				0.1	
		パンケ仙美里川				11.0	
		ペンケ仙美里川				6.5	

表-2 圏域内の道管理河川と優先整備区間の一覧 (2/2)

水系名	河 川 名					知事管理 区間 (km)	優先整備 区間 (km)	
	1次 支川	2次 支川	3次 支川	4次 支川	5次 支川			
十 勝 川		足寄川				51.6	21.8	
			稲牛川			15.5		
			螺湾川			31.5	0.7	
			茂螺湾川			5.8		
			茂足寄川			13.0		
		佐野川				1.9		
		下ワシップ川				5.0		
		上ワシップ川				5.5		
		塩幌川				10.0		
		ペンケトブシ川				6.0		
		大誉地川				5.5		
		ペンケクンベツ川				8.0		
		斗満川				25.0		
			ポントマム川			10.0		
		陸別川				15.6		
			清水川			7.5		
			宇遠別川			2.0		
	浦 幌 十 勝 川		浦幌川				88.7	
		十勝静内川				6.4		
		旧オベトン川				1.2		
		オベトン川				2.2		
		常室川				19.3		
		瀬多来川				12.0		
		仁生川				0.7		
		川流布川				12.5		
			浦幌オンネナイ川			0.5		
		<下頃辺川>						
		<浦幌十勝導水路>						